

はなれていても

大谷結美さん(小宮) 群馬県伊勢崎市在住



震災時は小学2年生。家族で川俣町に避難しました。今は大学2年生で、資格を取り、卒業後は福島県で養護の先生になりたいと思っています。教育実習も母校で行いたいと思っています。

震災の後、学校に行くのが辛いほど精神的に苦しい時期がありました。人間関係に悩んだ時期もあります。そんな時に寄り添ってくれたのが養護の先生でした。震災そして避難の間、先生の存在をとても大きく感じていました。辛かった学校生活を活かして終われたのは、飯館の先生方がいたからです。私は中学生の時から、地元

の田植えをふるさと学習でも。学校のふるさと学習でも田植えをやっていました。が、避難の間、飯館に連れていられたのは学校にいる時だけでしたから、自主的に地元に関われたことが大きかったです。大学の授業は、これまでオンラインがほとんどでしたが、今は友達もできました。「信号機は数か所だけ」とか「サルが珍しくない」とか話すと、「どれだけ田舎？」って言われてしまいますが、私にとってはそれでもそこが一番いいんだよなと思っています。母が小宮郵便局の局長を継ぎ、家族は小宮で生活しています。「遊ぶ場所がない」なんて不満を言っていました。が、離れてみるとすぐ帰りたいくなる、やっぱり一番安心する場所なんです。中学校の友達も、一緒にいて一番落ち着く存在で、当時はいろいろあったけれど、今ではそれさえ笑って話せる間柄です。来年成人式で皆に会えるのが楽しみです。

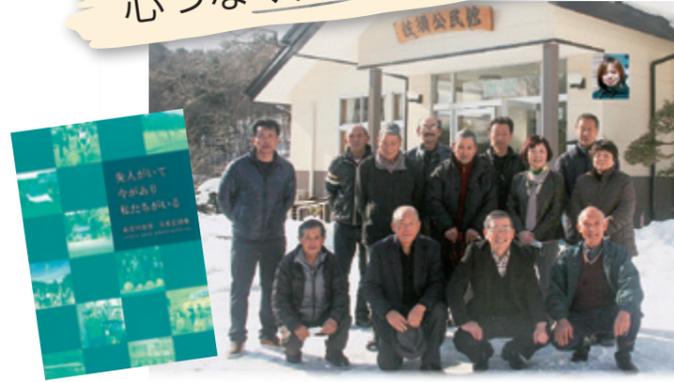
交流センター「ふれ愛館」だより
おすすめ図書を紹介し

交流センターでは、小説や実用書、絵本や児童書はもちろん、情報誌や健康雑誌も貸し出しを行っています。こんな本が読みたい!!というご要望は、『交流センター図書リクエスト用紙』に記入をお願いします。皆さんの希望に沿うように本の購入を行っています。貸し出し時間は平日の午前8時30分から午後5時までです。お待ちしております。

作者の松本春野さんは4月24日に実施した「YOUTOKO発見!ツアー」のゲスト。ツアーで絵本の読み聞かせをしていただきました。松野さんの作品は本書の他「ぼくのうまれたところ、ふくしま」も交流センターに置いてあります。多くの人に手に取って読んでいただきたいと思っています。

ふくしまからきた子 そつぎょう
作/松本猛・松本春野 発行/岩崎書店
原発事故により故郷を離れたまやちゃん。久しぶりに帰った福島で思い出の小学校へ向かいます。友達との再会を喜ぶ笑顔にジーンと胸が熱くなります。

心つなぐ佐須写真集が完成



編集委員の皆さん(写真集の掲載写真から)

佐須行政区が写真集『先人がいて 今があり 私たちがいる』を制作しました。歴代の区長、地域おこしイベントの写真など、記録としても貴重な資料を掲載。地区の歩みと人々の笑顔が詰まった宝箱のような1冊となりました。多くの写真を提供し編集委員長を務めた菅野典雄さんは「ふるさとへの想いをつなぐ1つのきっかけになれば」と話しています。写真集は地区の各家庭に配付されます。

パークゴルフ協会が奉仕作業



4月6日、『飯館村パークゴルフ協会』(横山正秀会長/前田・八和木)の26人が、「いいたてパークゴルフ場」で草むしりのボランティア活動を行っていただきました。「自分達が使う所だから、自分達で少しでもきれいに」と横山会長。会員の皆さんは数人ずつに分かれてコースに散らばり、芝の間の雑草などを丁寧に取り除いていました。

身近な話題をお寄せください
☎0244-42-1613
村づくり推進課企画定住係

話題のパレット

ナツハゼの絶品レシピ



村も加盟する「日本で最も美しい村」連合の『村食材活用レシピコンテスト』で、菅野クニさん(宮内)の『ナツハゼの赤飯』が見事入選を果たしました。ポリフェノール量が多く栄養価の高いナツハゼの美しい色を生かし、もち米「あぶくもち」とコラボしました。ナツハゼの香りと塩味が、モチモチおこわに驚くほどマッチした、絶品レシピです。

村産の花がイタリア大使館に



関根地区で太陽光発電所を運用している「solar SPV合同会社」は、協力協定に基づき村の農産物のPRに協力しています。出資会社でイタリアに拠点を置く(株)エルゴジャパンエナジーが、2月に在日イタリア大使館へ村産アルストロメリアを贈呈。駐日イタリア大使から、村に想いを寄せる感謝の手紙が届きました。